



社会福祉法人つるかわ学園  
つるかわ学園を支える会  
☎195-0051  
東京都町田市真光寺町  
186番地  
T E L (042) 735-2220  
F A X (042) 736-6374  
HP:tsurukawa-gakuen.com

「若者たち」  
君の行く道は  
果てしなく遠い

社会福祉法人つるかわ学園

理事長 廣本 肇

私の本「忘れられた子ら」(講談社版・一九七〇)の、あとがきにこんなことを書いています。

「若者たち」という、うたがある。君の行く道は果てしなく遠いだのになぜ、齒をくぐりしはじり君は行くのか そんなにしてまで

この歌を、施設にいたときよくうたった。仲間たちと同僚たちと。みんな気のいい奴ばかりだった。現在の心境は、広い野っ原に独りポツンとつっ立って、夜空いっぱい煌めく星を見ているようだ。

友よ  
夜明け前の闇の中で  
友よ 戦いの炎を燃やせ  
夜明けは近い  
夜明けは近い  
夜明けは近い

友よ この闇の向こうには  
友よ 輝く明日がある

みんな、力いっぱい歌ってくれ。大人の世界のイザコザはスカーツと忘れ、子供たちの世界を創作する童話作家のように、子供たちの心を大切に表現してやってくれ。福祉の命は尊い。昇りくる太陽のまばゆい光の中を歩いて朝を迎えるように、みんな手を結び、励まし合って、あるいはくれ。福祉の道は、まだまだ遠いぞ。

〈岡林信康・作詩作曲〉

私は二十九歳で千葉県柏市にある入所型の生活施設「桐友学園」の初代施設長になった頃、この「若者たち」と言う歌をよく唄っていた。

節分の日、利用者が灯油ストーブに、新聞紙をまるめて、火遊びをし、それがカーテンに燃え移り、七年かかつて建設した施設が全焼したので、その後、八か月以内に、施設を再建すれば廃園措置にしないという言葉を厚生省からもらい、「桐友学園」は、約束を守り、復活再起した。

十一月再開園式の目安がすぎ、七

月、「桐友学園」を去りました。

亡くなった五人のご冥福を祈り、そして、施設存続の使命こそ慙愧に耐えない心をわが身に刻む証としつつか、知的障害福祉に携わるとしたら生涯現役で、道を全うすること、命の尊さを片隅に持ち続けている人間として年老いていきたいと誓っていました。「桐友学園」の歴史も五十年を経て、いまも健在しています。そこは「わが青春のふるさと」であり、「笹鳴きの碑」は、亡き予ら、ときどき、そこに来て、守ってくれているのだらうと思っているのです。

考えてみれば、二十三歳で障害者福祉に携わるべくして誘い込まれ、いま、八十三歳だから、六十年、この福祉の仕事をしているのです。

根っこにあるのは、そうした子を待つ親御さん、ご家庭の兄弟姉妹、ご家族、親せき、そして障害を持つご本人、その人たちの周りの地域社会、国の制度や法律に直接関わる官僚、行政、政治家たち、福祉にどれだけのいいこと言ったって、実感、いい思いさせてくれたのかしら。と、だから親と子の、その民間の願いを背負い、民間で働いてきたのです。

「葛飾通勤寮」「桐友学園」さくら学園「つるかわ学園」、全部、親たちの気持ち、願望、汗水流し、体の続く限り、血のにじむような、人生の日々をつぎ込んだ人たちと知り合ったことが根っこなのです。だから、共通した涙と笑いの中にいて、仲間をつくり、後輩をつくり、いま、若い後を

継ぐ素敵な奴らと、意気投合できる日を胸はずませドキドキしながら、理事長として仕事をしているのです。

福祉の貧困に怒りを持って立ち上がった若者と評されメディアは施設づくり日夜汗を流す生きざまを報道していた。その頃は、まだ福祉に携わるものを美談の発想として扱われていた。いつか、こうした事は記事にならない時が来るのだらうことを願望していたのです。長い年月、この仕事をしていて、美談の終着駅、勲章と賞状をもらい「あなたは偉かった」と言われ、老いて枯葉のごとく死ぬなんて真つ平だと、生意気なこと言っていた事があります。今でも沸々として、それが心のどこかに残っているのです。六十年もこの仕事をやっているのに障害者を持つ親の苦悩は未解決のまま、さらに深刻さは、かつての時代とそう変わりが無いのです。この間、御殿場で、ひとつの集まりがありました。

社会福祉法人武蔵野会が経営する、富士学園、東京苑、今の「さくら学園」で働いていた人たちの同窓会があり六十人以上の元職員があつまりました。みんな、それぞれ年をとっていましたが昔の面影を残して、すぐ意気投合し和気藹々と歓談していました。ある時代、同じ気持ちで苦労した仲間たち、いい奴ばかりです。施設も建て替え中、素晴らしい施設になっていきます。そこにも、遠い道のりを辿り、歩いていった「若者たち」がいたのです。

# がんばる県・まけん県・くまもと県 H28年熊本地震 被災地支援活動報告

法人事務局長 月岡 亮

熊本地震によりぐくなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々およびそのご家族等関係者の方々に對しまして、心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と一日も早く平穏な生活にもご回復されることをお祈りいたします。

2016年4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震央とする気象庁震度階級では最も大きい震度7を観測する地震(前震)が発生し、その28時間後の4月16日1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震央とする震度7の地震(本震)が発生しました。津波発生の恐れはないものの、その後も断続的に地震が相次ぎ、気が抜けない状況です。

多くの人や物に被害を与え、現在も避難生活を余儀なくされている状況は、知的障害のある方々も同様に被災者となっております。

## 【合同災害対策本部の立上げ】

震災以降、各県の障害者関係団体が被災地支援を行う中、東京でも被災された障害のある方々や職員の方々また住民の方々に對して、東京という遠距離ではありますが、具体的にどのような支援ができるか検討するため、東日本大震災の時と同様に、東京都発達障害支援協会、東京都社会福祉協議会知的発達障害部会が合同で災害対策本部を立ち上げました。

対策本部では、熊本県へ調査隊を派遣し、現地の状況把握と情報収集を行ったうえで、利用者支援のため

の職員派遣を決定し、5月22日より活動がはじまりました。

## 【派遣期間・派遣先・派遣法人】

期間：平成28年5月22日～平成28年7月15日(2名体制)  
法人：正夢の会、滝乃川学園、武蔵野、しあわせ会、聖ヨハネ会、南風会、友愛学園、つるかわ学園  
：8法人/9名の職員

派遣先：社会福祉法人三気の会 熊本県菊池郡大津町にある「三気の会」は入所支援、生活介護、グループホーム、相談支援、地域活動支援、日中一時支援等、多岐にわたる事業を展開している法人です。定員70名の入所施設は、自閉症者が8割以上と全国的にも珍しい施設です。地震による被害は、建物内外において、数か所の亀裂、地面のひび割れ。3か所あるグループホームのうち2か所は地面の地割れ等があり、別の場所への建替えが必要となり、現在は全員入所施設へ避難している状況です。

## 【支援活動】

① 熊本市街へ阿蘇方面を繋ぐ阿蘇大橋は、その周辺で暮らす方々にとって重要な橋であり、その重要な

橋の崩落は誰もが想定しておりませんでした。

被害の大きかった南阿蘇地域には、三気の会のデイサービスを利用されている方もおります。その方は、自宅が土砂崩れの危険性が高く、同市の福祉避難所での生活を余儀なくされ、震災後一度も通所できていない状況でした。

南阿蘇地区の利用者送迎は、通常は阿蘇大橋を利用するため、20分程度で到着しますが、阿蘇大橋の崩落により、大きくルートが変わり、往復2時間の送迎となります。送迎は2名の職員で行うことから施設の体制上送迎ができない状況でした。(南阿蘇地区以外の利用者は送迎を開始)

今回の東京チームは、この送迎のニーズに應えるため2名体制で派遣されました。送迎ルートの道路状況は、所々亀裂等はみられますが、送迎には支障はなく、但し、雨天時は土砂や霧が発生しやすく、また6月の梅雨時季は、毎日のように大雨警報、避難勧告が発令され、送迎ルートの閉鎖や山道の土砂災害等の危険性を踏まえ中止することもありました。山道での送迎であることから、十分に配慮した運転が求められます。

## ② 災害ボランティア活動

悪天候や送迎支援以外の空いた時間、大津町災害ボランティアセンターへ登録し、被災地支援、被災者宅の引越、被災者宅のこみ処理、瓦礫撤去、水害被害対応等を行いました。活動させていただいたお宅は、ほとんどが高齢者宅であり、頼りになるのは地域の社協が運営する

ボランティアセンターとっておりました。テレビ等の報道では、被害の大きかった益城町や阿蘇市の避難所等が取り上げられておりますが、まだまだ多くの在宅高齢者が支援を求めています。

## 【活動を終えて】

5月～7月間に3回に渡り、合計23日間熊本支援活動を行ってきました。「活動3割 コミュニケーション7割」「瓦礫を見らんで、人々」は見る。おったちが何とかしたかとは、「人々たい」この言葉は大津町のボランティアセンターにてボランティアに対しての言葉です。

被災地での支援では、人手を支えるための支援も大切ですが、人を支える支援も大切だと思います。決して自分の基準で相手を見たり、判断したり、押し付けたりせず、まずはよく観察し、相手の話をよく聞き、コミュニケーションを図ることが大切だと思います。

今回の送迎支援はとても大切な活動であったと思いますが、決して特別な支援を行ったわけではありませぬ。余震が続けば被災者の負担は大きくなり、3度目の大地震を恐れ、気持ちに前に進まない状況だからこそ外部から応援に来てほしいという地元職員の心の支えこそが大切だと感じました。

被災地支援を通じて、熊本県と東京の人と人とのつながりが大震災後の一時のことではなく、これから長期にわたる復興活動を支えるきっかけとなればと考えます。

約2か月間の支援を終え、最後に

職員の方より、「前に進んでいく勇気をいただきました。震災から3カ月経ち、これからは我々で繋いでいきます。…」多少でも、現地の方々に力を与え、現地の方々から大きな力をもらった気がします。

「天災は忘れたころにやってくる」それまで何ができるのか、私が、熊本県で見たこと聞いたことを人に伝え「共有」することが「減災」につながると信じます。

派遣を決定した対策本部、派遣させていただいた法人、義援金等の支援をいただいた方々、皆様に感謝いたします。

倒壊した南阿蘇地域の住宅



敷地内、数十箇所に渡り石垣等が崩れる熊本城



土砂崩れにより崩落した阿蘇大橋

### ダイエーユニオン活動について

つるかわ学園担当 輿石 大輔

七月二十九日、ダイエーユニオン活動が行われました。この行事はダイエーユニオンの社会奉仕活動の一環として二十年前から続けていただいている活動です。午前中は、音楽活動として、学園の地域交流談話室で「サザエさん体操」



「なんで横浜」等、音楽に合わせてダイエーユニオンの方々と一緒に笑顔で体操をしていました。ダイエーユニオンさんが用意して下さった昼食で食事をを行い、午後は創作活動で、貼り絵等の作品を作りました。その後、恒例のパン取り競争を行い、皆さんと一緒においしくいただきました。皆さん、おもしろく楽しんでいます！

毎年、ダイエーユニオンの方々には楽しい企画を用意していただき、

### 夏企画

つるかわ学園担当 腰 英隆

八月十八日(木)に恒例の夏企画を行いました！

当日は、大規模修繕工事と、あいにくの雨で、すべての企画が室内になつてしまいました。午前は学園バンド演奏で盛り上がり、フラダンスの発表会では、フラの衣装を着て優雅に踊りました。

カフェテリア風の昼食を挟み、午後は浴衣や甚平などを着用、盆踊りをし、スイカ割り、かき氷、魚釣り、ヨーヨー釣り、綿菓子と縁日の雰囲気も存分に味わいました。皆さん嬉しそうに笑顔が絶えることがありませんでした。

### みんなで盆踊り～



### フラダンスの発表会 みんな綺麗です♪



綿菓子!

皆さん喜んで頂けることが、来年の夏企画開催の原動力にもなります。また、皆様と一緒に夏を感じたいです。

### 魚釣り!



利用者の皆様も本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。また、来年もよろしくお願いたします。



### 納涼会 (ボウリング&バーベキュー)

町田通勤寮長 三階 広明

七月十六日に恒例の納涼会(ボウリング&バーベキュー)が行われました。ボウリング大会は町田にある「ラウンドワン」を利用していません。参加する利用者さんが変わってもボウリング初体験の方から、密かに優勝を目指している方までの賑やかな大会になることには変わりません。利用者さん同士でコーチをしている場面も見られるようになってきた気がします。

ただ、最近気になることがあります。「集団行動が苦手」、「大きな音が苦手」などの理由で参加をしたくないというのはわかるのですが、「やったことがないから」、「下手だから」という理由で参加したくないという利用者さんが増えてきた気がします。配慮はしながらも、そこから一歩踏み出して経験することにも意味があると思っておりますので、「楽しい」体験の一つになることを願っています。

バーベキューは、「東林バーベキュー」を利用しています。ここは「送迎付き」が何と言っても最大のポイントです。帰り道を気にしないで楽しめるのはありがたいですね。

そして、食べ放題(デザートも)・飲み放題(ソフトドリンク)なのも、食べ盛り(?)の利用者さん

んが多い通勤寮としてはありがたいお店です。

ここでは、毎回利用者さんの「個性」(?)を垣間見ることができまます。まず同じテーブル



### 第三回つるかわ学園ふれあいまつり二〇一六 開催に向けて

地域生活支援主任 近藤 洋

十一月十三日(日)に【つるかわ学園ふれあいまつり二〇一六】を開催いたします。

今年度はつるかわ学園園舎の大規模修繕に伴い、ステーション・物販等の規模を縮小、また、雨の場合は中止とさせていただきます。

昨年度は、残念ながら雨天での実施となりましたが、多くの方々に来て頂いて頂き、買い物やステーションでのコンサートを楽しんで頂きました。

現在、ふれあいまつりの担当者を中心として、利用者の方や地域の皆さんに喜んでいただけるようなステーションの企画やミニ福祉バザーの物品受

に座ったメンバーの分を「もくもく」と焼く人、それを次々と食べている人、取り皿に山盛りの食材を持ってきては食べきれずに周りの人に「無理やり」配っている人、最初からデザートを食べ、満足の間になっっているようです。

#### つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!  
HP: [tsurukawa-gakuen.com](http://tsurukawa-gakuen.com)



領、地域の福祉団体への場所提供の調整等を行い、開催準備を進めていきます。

これまで多くの方々への支えによって地域行事を開催してきましたが、地域福祉ネットワークの構築については、今後も行事づくりも含め地域の方々に情報を発信、連携が図れるように継続して取り組んでいきたいと考えております。

また、つるかわ学園の地域行事に関する感想やご意見などをいただければ幸いです。

当日は、皆さまのご来場を心よりお待ちしております

### つるかわ学園を支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこつとした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

#### 会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一〇年額三千元ですが、ひとり何回か入っていたらとを歓迎、お願ひしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

#### 入会方法

入会してくださる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

#### 振替口座番号

〇〇一〇一〇一七一一九四〇二九加入者

社会福祉法人 つるかわ学園